

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		平成20年度		岡山県 「親の学び協働推進事業」 委託要綱
事業開始年度	03	地域文化と人が輝くまちづくり		
大項目 基本目標	02	生きがいのあるまちづくり		
中項目 基本施策	01	家庭教育機会の増加		
小項目 施策	01	家庭教育支援事業		担当課(室) 生涯学習課
事務事業名	01	家庭教育支援事業		職・氏名 生涯学習係長 波多野 靖成 電話 0869-64-1841

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	市内で子育てをしている親子
目的(何のために)	今日の家庭の教育力の低下は、核家族化・少子化・地域的なつながりの希薄化などにより、地域での「学び」「育ち」を支える環境が整っていない状況を、地域の教育力の回復に熱心な子育て団体やNPO等のノウハウを生かし、親及び親子の学びを促進し、家庭の教育力の向上を図る。
行政活動(どのような方法で)	子育て団体やNPO等と行政が連携し、親及び親子の学びを推進するプログラムを企画・実施し、家庭の教育力の向上を図る。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	家庭の教育力の向上を図るだけでなく、子育て団体及びNPO等の活動が広がることを支援する。

事業の実績				
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
親の学び協働推進事業参加者	人	-	-	564
直接事業費	千円			1,549
必要人員	人		0.20人	1,549
事業費	千円	0	0	1,549
国・県支出金	千円			
受益者負担金	千円			
繰入金	千円			
市債	千円			
その他()	千円			
一般財源	千円	0	0	1,549
受益者負担比率	%			

結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
結果指標①	説明	親の学び支援事業参加者		
対前年比	%			564
活動コスト	円			1,549
単位当たりコスト	円			3
結果指標②	説明	親の学び支援事業参加者		
対前年比	%			564
活動コスト	円			1,549
単位当たりコスト	円			3

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
親の学び協働推進事業参加者数	目標値(A)			500	500
	実績値(B)			564	到達目標年度
	達成率(B/A)			112.8%	平成21年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
20年度より単県補助を実行委員会形式で受けることとなり、継続して参加者を増やしていく。					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりのコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
市の関与の妥当性	市の関与の必要性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	判定理由・課題認識 NPO等との協働により、お互いの持つノウハウや、メリットを生かすことが出来た。また、中学生と幼稚園児の交流は、お互いがどのように関わっていったらいいのかを考える場となった。
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い 説明 実行委員会より要望の強い事業である。	
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input checked="" type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> B 判定理由・課題認識 岡山県の委託事業であり、事業自体はこの委託料で事業を進められた。
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input checked="" type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	有効性評価<A~E> B 判定理由・課題認識 行政とNPO等との新しいつながりが構築され、参加した団体同士の連携も深まった。その後の参加者からも、日々の子育てに役立っている。との声も聞かれた。

平成21年度の状況		目標値		結果指標量①		結果指標量②		成果指標量	
目標値	500	500	500	500	500	500	500	500	500
状況		拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了	
説明	平成20年度の岡山県の委託事業なので、当該年度で事業は終了している。21年度より新たな事業に応募していく。								

総合評価		評価区分<A~E>
市内4つの子育て団体と3NPOが協働して事業を進めたことにより、今まで希薄だった地域の団体同士のネットワークが構築できた。親子で行ってみたいと思われるプログラムの開発が出来た。		B

平成22年度以降の方向性・内容							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	単県補助事業があれば積極的に応募し、市民との協働の事業実施を継続して行っていく。						
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果			
効率性		県事業が採択される場合は応募するが、自主運営出来る道を探っていく。	22年度	自主運営による人件費コスト削減			